

鷹南學園



様式6	平成29年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成	
	○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	①望ましい態度や習慣を身につけ、自立して生活する力を育てる。 ②自己有用感や肯定感を高め社会性を育てる。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を図る。	
取組	①カリキュラムマネジメントを踏まえて様々な教育場面で自主性や主体性が育つように指導を工夫する。 ②きょうだい交流・中学生のボランティア活動・学校行事を通して自己有用感や肯定感を高める。 ③オリンピック・パラリンピック教育の推進を通して、体力の向上や国際理解教育の推進を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<p>・東台小・第五中では道徳拠点校、中原小では人権教育推進校の研究授業を実施、講師を招聘して研修会を実施した。・道徳授業地区公開講座では、教科化になる道徳の授業と道徳教育とのつながりを校長が保護者に対して伝えることを通じて、理解啓発につなげることができた。</p> <p>小学校では全学年において道徳授業を公開し研修して道徳授業の展開の基本について共通理解が進んだ。・講師を招聘して研修会を実施し、中心発問の視点、別葉（横断的な関連付け資料）の作成・道徳地区公開講座では講師の方を招聘し、自己の生き方について取り組んできた。・中学校体育大会において生徒主体による取り組みを行い、9割以上の生徒が満足した取り組みであったと回答している。・全教員が自己申告にオリパラの項目を記載した。・講師に来ていただきオリパラ教育に取り組み子どもたちのスポーツへの関心が高まった。</p>	<p>・道徳、人権教育については今後も研修を進める。</p> <p>・道徳の内容項目を一層自分事ととらえて自己を見つめ、多面的・多角的に考えさせる授業を浸透させていく。</p> <p>・講師を招聘して研修会を実施する。</p> <p>・児童・生徒主体による取り組みを今後も行う。</p> <p>・全教員が自己申告にオリパラの項目を記載する。</p> <p>・講師を招聘しオリパラ教育に取り組む。</p> <p>・次年度に向け、自尊感情を高揚させ、それを基盤として、人も自分も大切にできる心と力の育成を目指し、カリキュラムを見直し、改善を図りながら教育活動を進める。</p> <p>・引き続き、「本物との出会い」の場の創出を通じて、あこがれをもち、自らスポーツに取り組もうとする態度の育成につなげる。</p>

検証項目	(2) 学校運営について	
	○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	①学園校長会、学園管理職会、学園幹事会を組織的・計画的に行うこと。 ②拡大幹事会を活用し、学園の教育課題に対応する。	
取組	①本年度は幹事会の実施日を調整や、副担当を参加させる。 ②拡大幹事会では次年度も「学力部会」「体力部会」で調査等を分析し、教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行っていく。	
	成果	課題と改善方策
	<p>・学園幹事会不在時には他の教員が参加し、連絡には公務支援システムの学校間掲示板を活用し効率化を図っている。</p> <p>・会議を精選することにより、捻出した時間を用いて、計画的に教育課程や新学習指導要領の研修会を実施し、学校運営への参画意識を高めることができた。</p> <p>・管理職、各主任で構成される拡大幹事会における学力及び体力の向上に向けた一貫した取り組みや学校独自の特徴に応じた取り組みの充実を図るための資料をまとめることができた。</p> <p>・幹事会の教員が役割を自覚し、一層効果的な交流活動や相互乗り入れの方法について主体的に考え、提案をするようになってきている。</p>	<p>・中学校において、学力調査全国（中3年）の分析から国語の知識は全国・都平均を超えているが、活用は都平均と同じ、数学は知識は全国・都平均より4%下がっており、活用は全国平均と同じ、都平均より2%低い。この傾向は昨年度と同じである。「数学が好きである」という項目が低いと、数学を好きにさせる授業改善が必要である。さらに英語の学力向上を図る必要がある。</p> <p>・各会議の内容とその取り扱い方について漏れや重なりがないようトリアージし、より効果的な進め方を徹底していく必要がある。</p> <p>・幹事会からの分析内容等が他の教職員に確実に浸透するための方法を一層確実させる必要がある。</p>

		(3) 小・中一貫教育校としての教育活動	
検証項目		○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標		①昨年度の相互乗り入れ授業の検証を受け、引き続き生徒の学力向上、教員の指導力向上につなげる。 ②学園行事の内容の精選を行い、交流活動を充実させる。	
取組		①小学校6年算数へ、中学校数学へ相互乗り入れを行う。 連絡会議は定期的実施し、学力向上のための方策を検討する機会とする。 ②きょうだい学年交流、子ども熟議の実施、3校連絡会は実施する。2月に行っていた小4・中2交流は6月に実施する。	
		成果	課題と改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れの授業は実施できている。より良い実施方法について教員が主体的に考えている。乗り入れを行うことで多校種の授業で大切にしていることについて理解を促す機会になっている。保護者に対しても、公開等を通じて理解、啓発が進んだ。 ・メントレについて受講した学年以外にも汎化し、集団で力を合わせる具体的な言動の仕方について改善が図られた。 ・全国学力調査(中3)では自己肯定感・自己有用感が東京都・全国よりポイントが高く取り組みの成果は出てきた。 ・学園研修では協働して道徳の研究に取り組み、各校の授業改善が進んだ。 ・きょうだい学年交流は参加児童・生徒が肯定的にとらえており、保護者の評価も好評価であった。 ・メントレの取り組みは各行事に成果として見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れの授業は実施できているが、小学校への乗り入れの指導については今後の課題である。お互いの授業改善のためには中学校教員の授業は必要と捉えている。 ・学園集会は低学年の負担が多く、次年度学園集会は、きょうだい学年交流を充実させる。 ・次年度の学園研修は新学習指導要領実施に向け、各教科のカリキュラム検討を中心に教科の研究について実施する。新学習指導要領による指導内容の変化に伴い、ねらいを十分に達成できる指導の在り方の具体化を通して、児童・生徒の学力向上につなげる必要がある。 ・メントレについては、同じ場面で同じ内容を扱うほか、学んだことを他の場面にも汎用することができるよう、発展性や意図性をもたせていく必要がある。

		(4) 児童・生徒の学力・健全育成	
検証項目		○ 児童・生徒の学習意欲 ○ 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況(習得、活用、探究) ○ 小学校と中学校の評価の一貫性 ○ 不登校、学校不適應等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力	①新学習指導要領移行を踏まえた授業改善 ②基礎学力や学習習慣の定着を進める。 ③鷹南スタンダードの定着	
	健全	①「鷹南スタンダード(生活のスタンダード)」を定着させる。(みそあじ言) ②人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。”	
取組	学力	①思考力等を重視した授業が取り組まれてきている。さらに発展させ、主体的・対話的で深い学びとなるよう授業改善に取り組む。 ②地域未来塾や生徒会を活用し、学習支援をしながら家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③鷹南スタンダードの定着のため保護者への周知徹底と自己申告等にスタンダードの取組を記入させる。	
	健全	①課題としてはチャイム着席等が徹底していない実態が見られ、子どもの主体的な取り組みを通して改善していく。鷹南スタンダードを周知徹底するとともに、教員の自己申告書に盛り込むよう指導していく。さらに家庭との連携を図っていく。 ②いじめをなくそうとする意識が高まってきている。東京都道徳教育推進拠点校や 人権尊重教育推進校の指定を強みに、さらに人権教育、道徳教育、支援教育の充実を図る。	
		成果	課題と改善方策
		学力	学力
		<ul style="list-style-type: none"> ・校内の鷹南スタンダードの取組と定着はできているが、家庭学習の定着が課題。 ・教員が「主体的な学び」のイメージをもって授業に取り組んでいる。 ・中学校の補習教室、未来塾は実施できている。また、生徒会主催の勉強会には80名を超える生徒が参加し、教員も指導に入っていた。 ・各学年の未来塾(本校では、スタディタイムといっている)は、学生及び地域の方による支援員が年間を通して関わっていただき、人間関係を円滑にもちながら、安心して学べる場として機能することができた ・中学2年の東京都学力調査では昨年度と比較し本年度は国語、社会、数学、理科は平均を超えた。英語も先年度より向上している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鷹南スタンダードの家庭学習の定着ができていない。 ・中学校未来塾の平日が参加者を増やす工夫が課題である。 ・国語の「話す」「聞く」の指導を他教科・領域の積極的に活用していく必要がある。
		健全育成	健全育成
		<ul style="list-style-type: none"> ・生活のスタンダードについてはすべての教員が同一指導を行っている。 ・中学校の自己評価において、「あいさつを返すことができたか」との問いに94%の生徒ができていた。「あいさつの習慣がみについた」との問いに対して87%の生徒ができていた。小学校においても80パーセント以上の児童・保護者が達成しているのとらえている。全国学力・学習状況調査では「失敗を恐れずに挑戦する」の質問に肯定的な生徒が都平均より10%高い。「友達の話や意見を最後まで聞く」の質問では100%に近い生徒が肯定的に答えた。 ・メントレを実施し、成果が出ている。(大会での優勝や勝ち進むことができています)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も挨拶運動等の取り組みを実施するとともに、地域保護者に連携・協力を求めていく。 ・中学校では次年度も交通安全教室、喫煙防止教室(癌教育)、薬物乱用防止教室、飲酒防止教室、命の教育を実施する。 ・メントレは次年度もCS委員会に依頼し取り組む ・「時間を守る」「言葉づかみややさしいものにする」については、達成度に課題がある。それらがなぜ必要なのか、どういう言動をすればよいのかについて具体的な指導を意図的かつ継続的に行う必要がある。

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営	
		○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営
	○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流	○ その他
目標	①コミュニティ・スクール(CS)委員会の運営を持続可能にする体制作りを進める。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」(挑戦心・やり遂げる力・協働する力)の活動を持続可能にする。 ③学校経営の協議機関としての取組を重点におく。	
取組	①持続可能なCS委員会のため、CSによる行事の精選や会議の効率化を図る。 ②「鷹南っ子生きる力育みプログラム」の活動を持続可能にするため、CS委員会において、取り組みの精選と会議の効率化を図る。 ③学校経営の協議機関としての取組を重点におくため、授業公開や学校行事にCS委員の方に積極的に参加していただく。授業公開の際には、委員の方々からの感想や改善意見が反映できるよう、観察カードへの記入を依頼する。	
成果		課題と改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・メントレにより中学校では体育大会においては達成感を重視した指導を行うことができています。1年生、E組、部活動のメントレを実施し、成果が出ている。(大会での優勝や勝ち進むことができています) ・鷹南コンサートの吹奏楽部保護者への参加者が300人を超え、地域のお手伝いも100人を超えている。また学園卒業生の協力もあった。 ・7月にCS委員による教職員へのCSの説明会の実施し、CS委員会の活動が明確になった。多くの場面でCSや地域が「子どもたちや学校を支えている」ということが理解できた。 ・漢字検定は300人を超える参加者となった。 ・CS拡大大人熟議では、CSと地域の連携を深めることができた。 ・子ども熟議・大人熟議を通して、児童・生徒を支える人々の存在と活動の具体について知り、活動へのモチベーションを高める機会となった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・メントレの継続と予算の確保 ・鷹南コンサートの運営及び協力者の発掘 ・CS委員会の理解啓発(教員・保護者) ・漢検受験者増による会場や運営スタッフの確保 ・教職員によるCS委員会の取り組みの理解をより広げ深めるべく、鷹南会等を通じて、顔と顔を合わす機会設定を継続する必要がある。 ・CS主催行事を、より良いものに洗練していく。

平成29年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (5) の検証結果を踏まえて	1 「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動 ・小中乗り入れ ・メンタルトレーニング ・きょうだい学年交流 ・CS子供熟議・大人熟議 ・プレ講座・部活体験(小6体験) ・小5中学校体験
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・道徳教育の充実 ・人権尊重教育の推進 ・鷹南スタンダードの定着 ・みそあじ言 *み:身だしなみ そ:そうじ あ:あいさつ じ:時間を守る 言:言葉づかい ・主体的、対話的、深い学びの実施
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ・教科研究を通じた学園研修(学園カリキュラムの検討) ・思考力の育成を重視した授業改善 ・道徳の授業の充実 ・鷹南スタンダードの実施(家庭との連携) ・人権教育の実施